

東関東自動車道
下小野第二高架橋耐震補強工事

設 計 図
【海老川南橋（上り線）】

令和 7 年 2 月

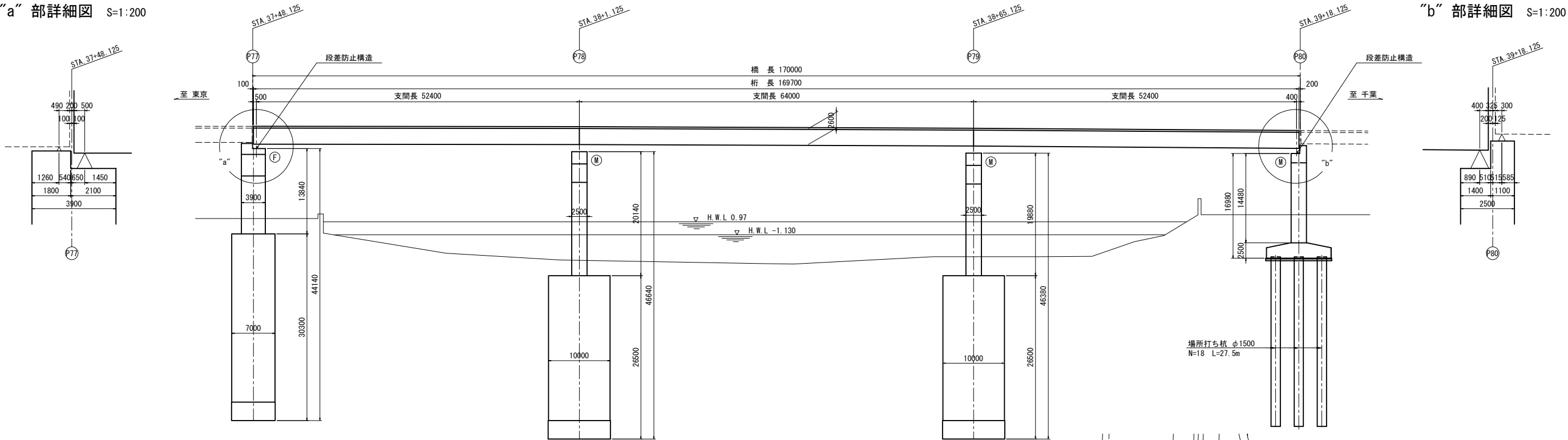
東日本高速道路株式会社
関東支社 千葉管理事務所

目 次

[illegible]

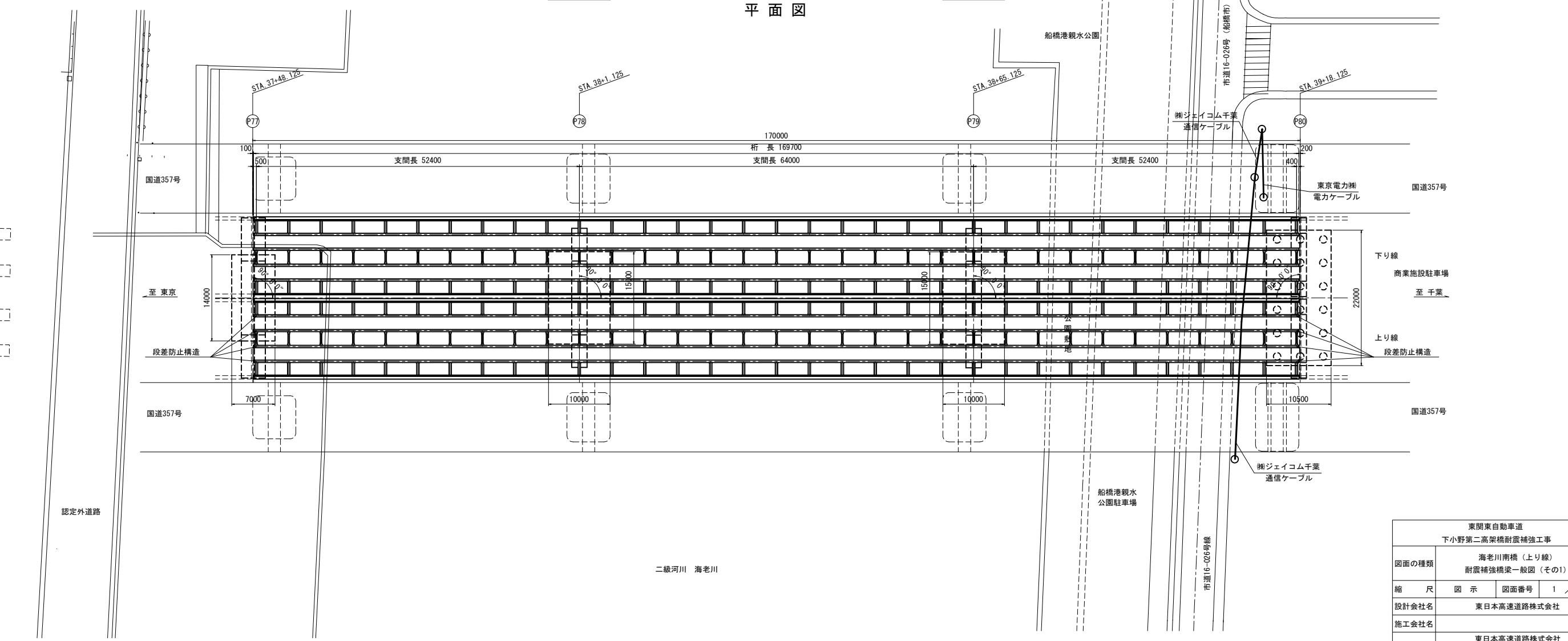
側面図

“a”部詳細図 S=1:200

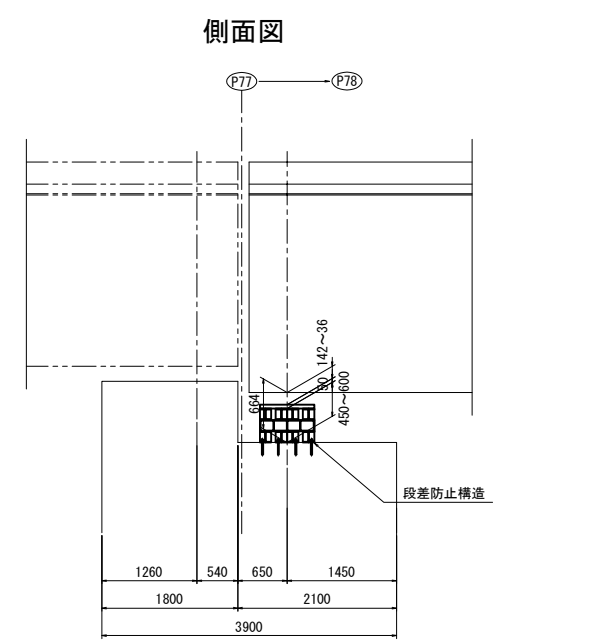
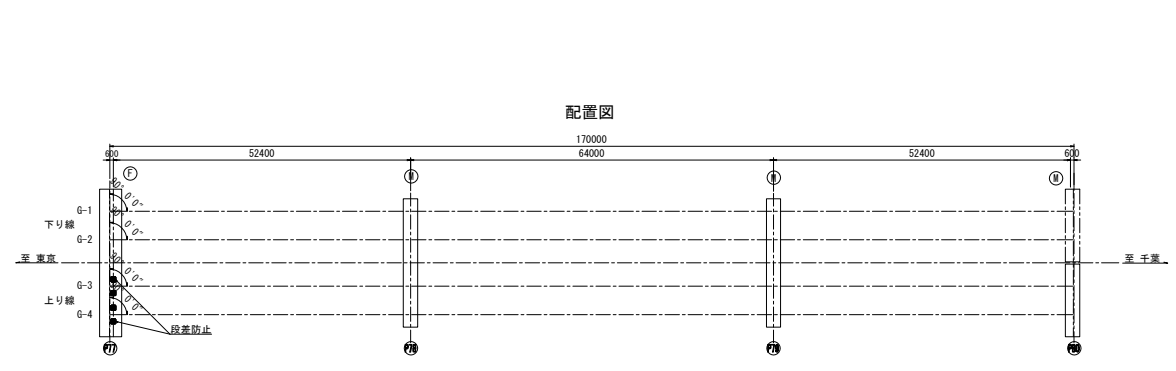
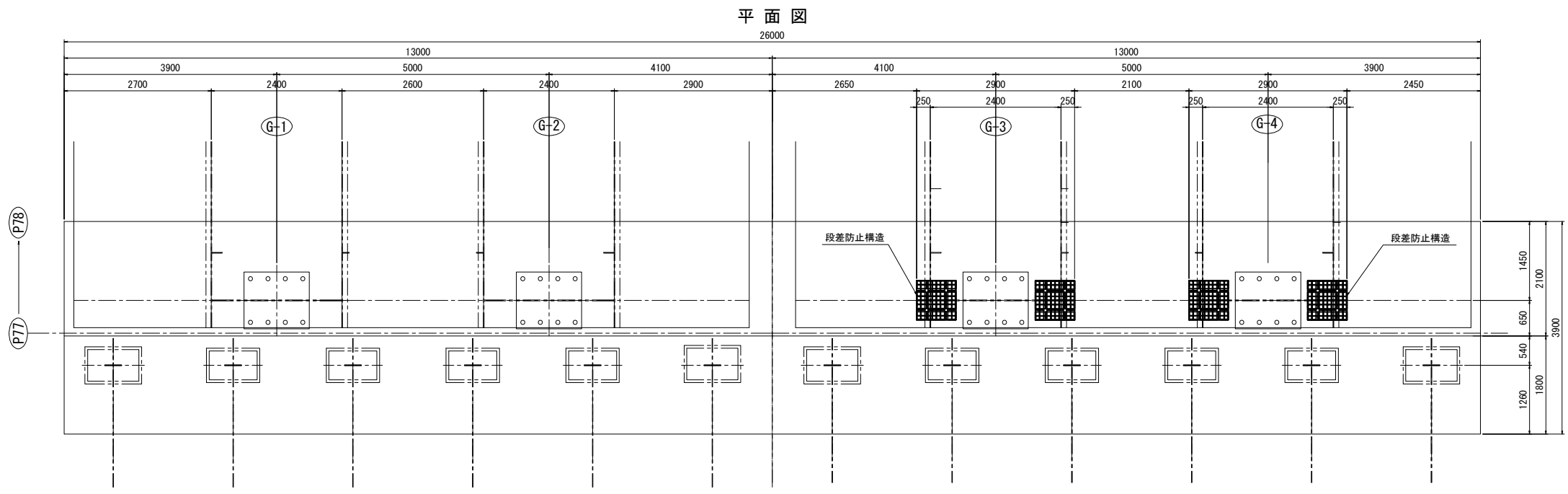
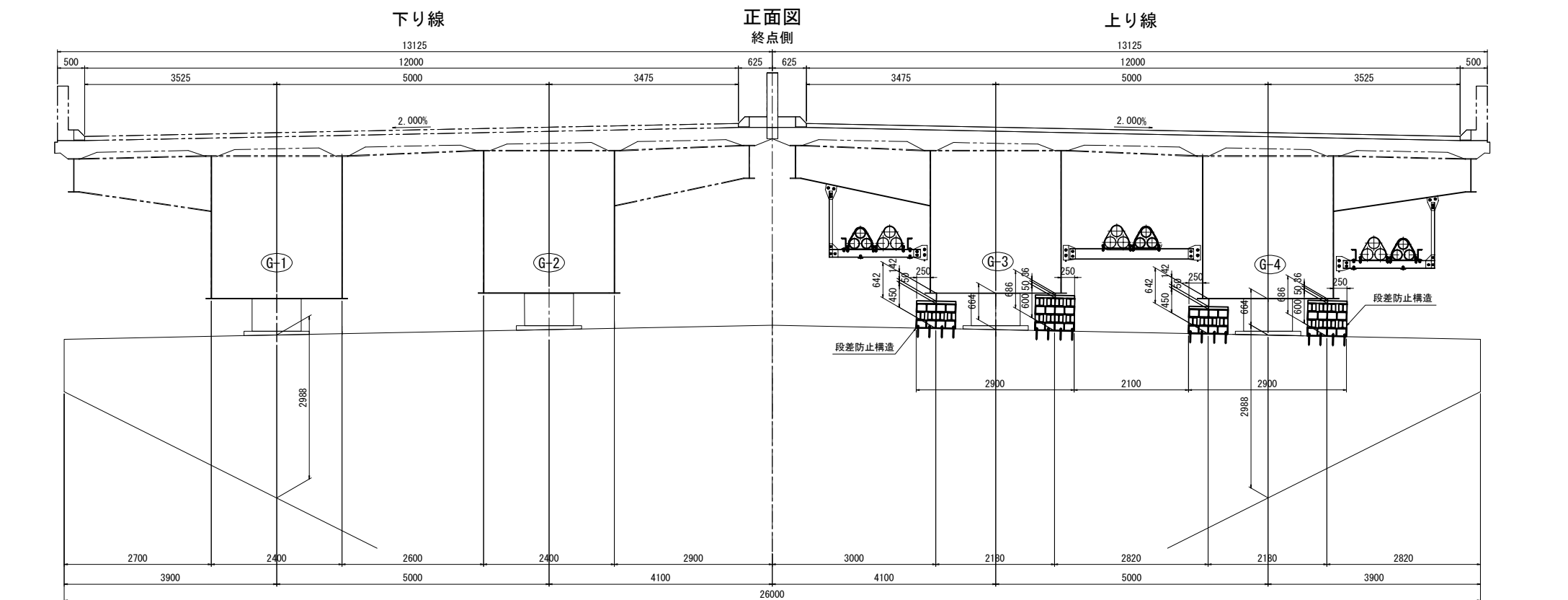


“b”部詳細図 S=1:200

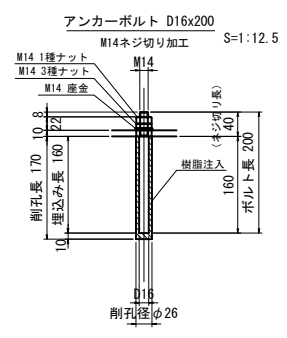
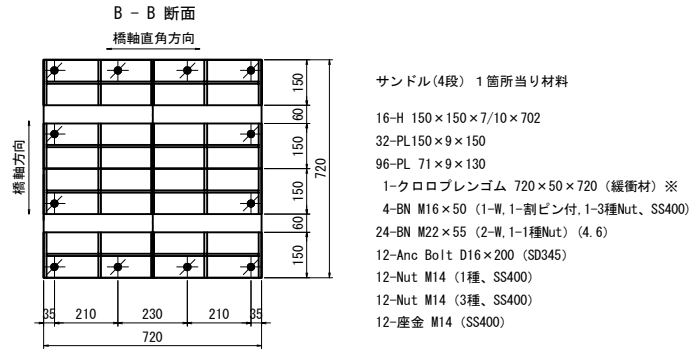
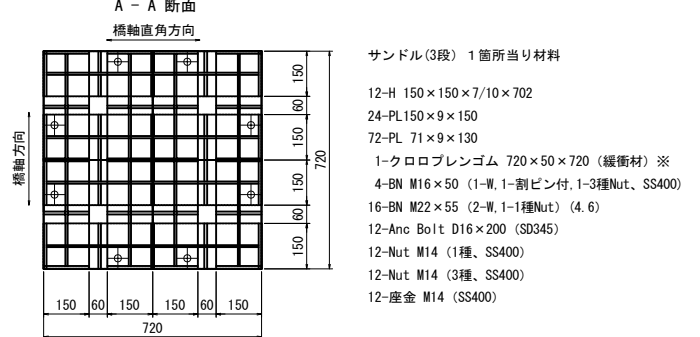
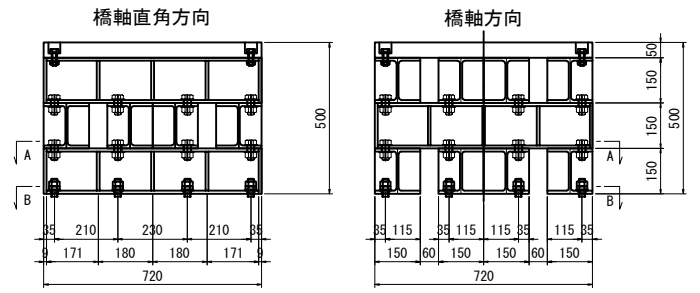
平面図



東関東自動車道				
下小野第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	海老川南橋（上り線） 耐震補強橋梁一般図（その1）			
縮尺	図示	図面番号	1 / 5	
設計会社名	東日本高速道路株式会社			
施工会社名	東日本高速道路株式会社			
事務所名	関東支社 千葉管理事務所			



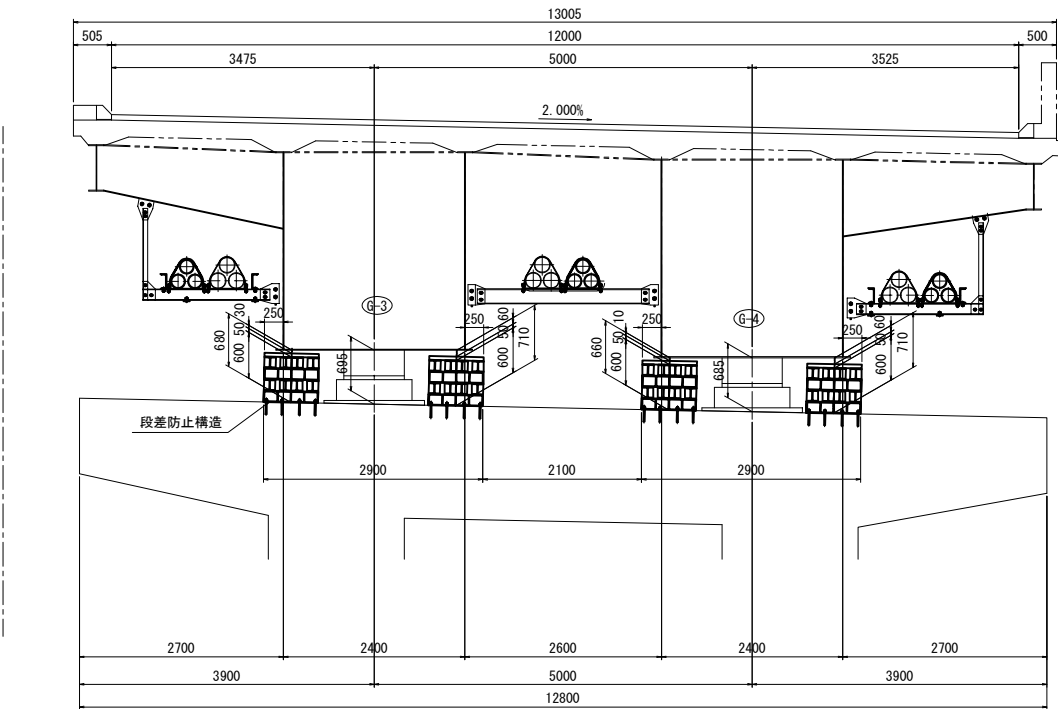
段差防止構造（サンドル材）詳細図 S=1:25



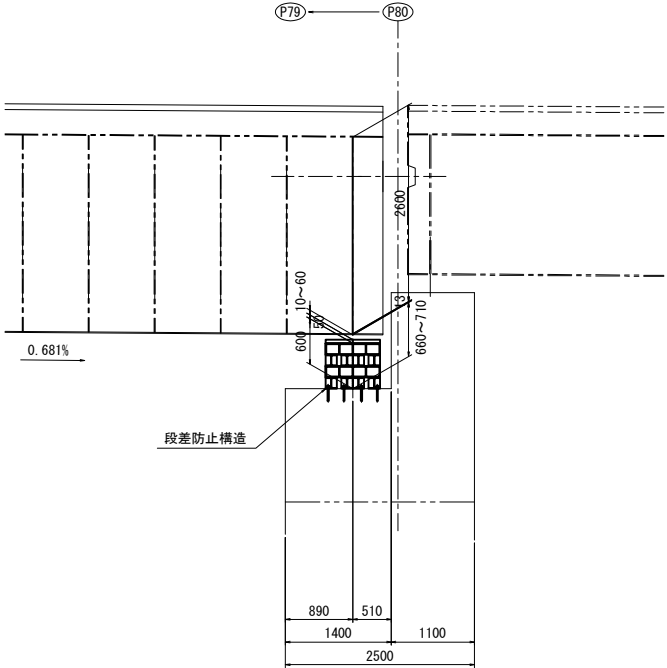
- 注記)
- 特記なき材質は、全てSM400Aとする。
 - H形鋼のボルト・ナット用孔明直径はφ25とする。
 - ※印以外の部材は、全て溶融亜鉛メッキ処理とする。
(膜厚は、JIS H8641 HDZT77 より 77μm以上とする。)
但し、ボルト・ナットの膜厚は、HDZT49より 49μm以上とする。)
 - 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
 - 連結用のボルトはゆるみ止めナットを使用すること。
 - アンカーボルトのネジ切り部は溶融亜鉛メッキ処理とする。

東関東自動車道 下小野第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	海老川南橋（上り線） P 7 7 橋脚 段差防止構造配置図			
縮 尺	図 示	図面番号	3 / 5	
設計会社名	東日本高速道路株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所			

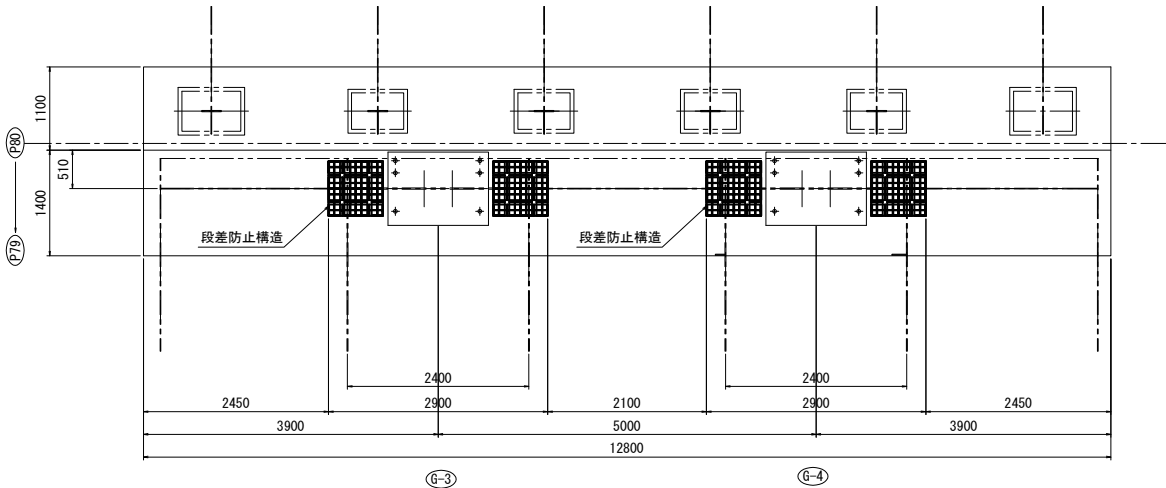
正面図



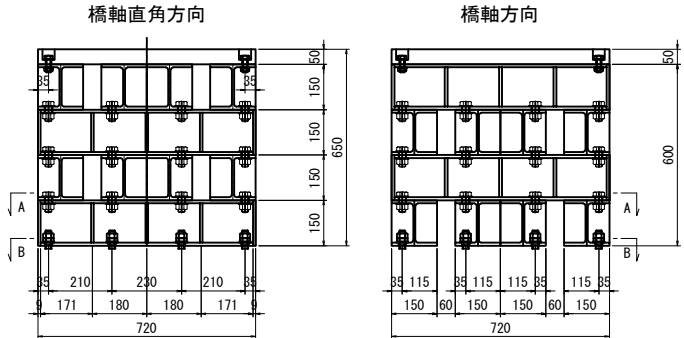
側面図



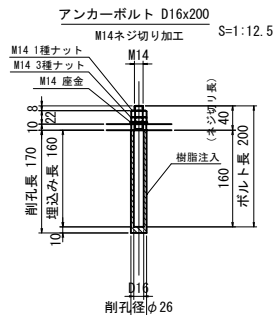
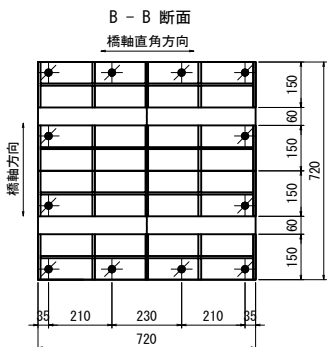
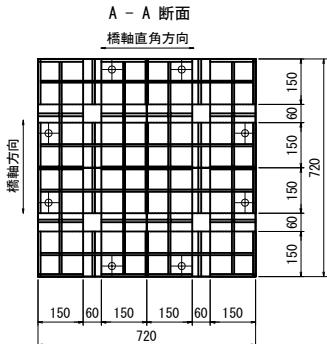
平面図



段差防止構造（サンドル材）詳細図 S=1:25



- サンドル(4段) 1箇所当り材料
- 16-H 150×150×7/10×702
 - 32-PL150×9×150
 - 96-PL 71×9×130
 - 1-クロロプレンゴム 720×50×720 (緩衝材) ※
 - 4-BN M16×50 (1-W, 1-割ピン付, 1-3種Nut, SS400)
 - 24-BN M22×55 (2-W, 1-1種Nut) (4.6)
 - 12-Anc Bolt D16×200 (SD345)
 - 12-Nut M14 (1種, SS400)
 - 12-Nut M14 (3種, SS400)
 - 12-座金 M14 (SS400)



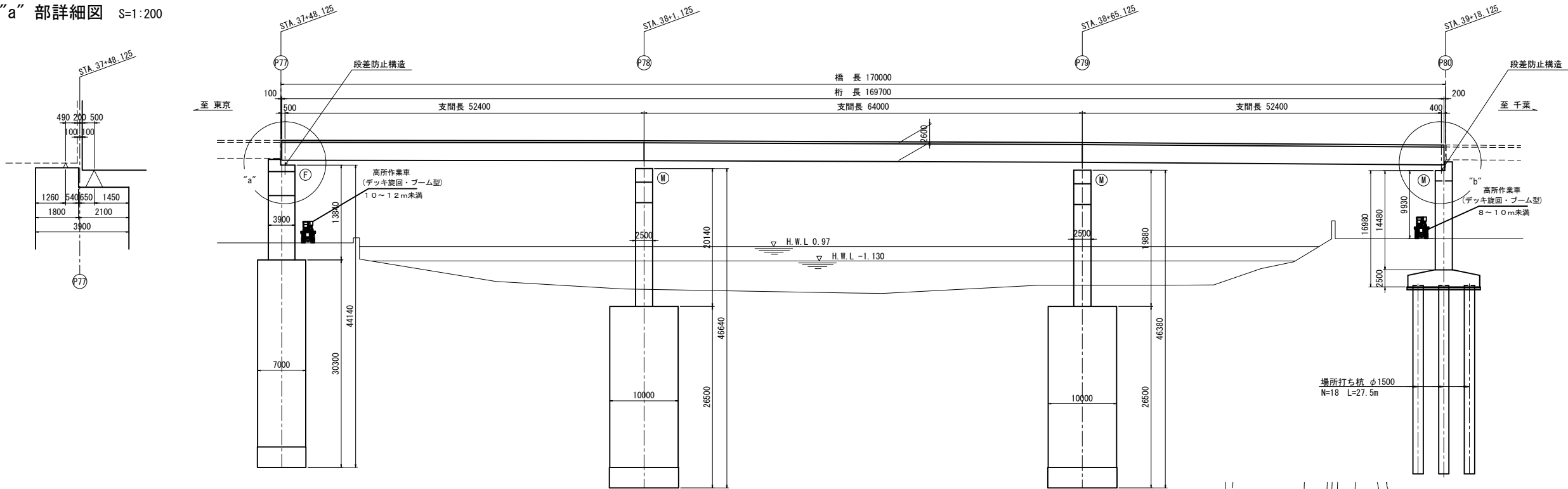
- 注記
- 特記なき材質は、全てSM400Aとする。
 - H形鋼のボルト・ナット用孔明直径はφ25とする。
 - ※印以外の部材は、全て溶融亜鉛メッキ処理とする。
(膜厚は、JIS H8641 HDZT77 より 77μm以上とする。
但し、ボルト・ナットの膜厚は、HDZT49より 49μm以上とする。)
 - 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
 - 連結用のボルトはゆるみ止めナットを使用すること。
 - アンカーボルトのネジ切り部は溶融亜鉛メッキ処理とする。



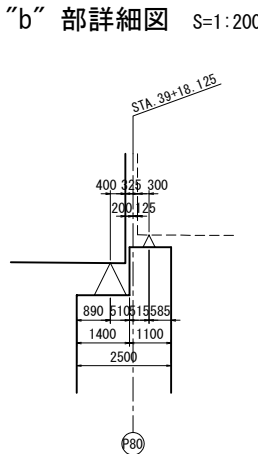
東関東自動車道 下小野第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	海老川南橋（上り線） P80橋脚 段差防止構造配置図			
縮尺	図示	図面番号	4 / 5	
設計会社名	東日本高速道路株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 千葉管理事務所			

側 面 図

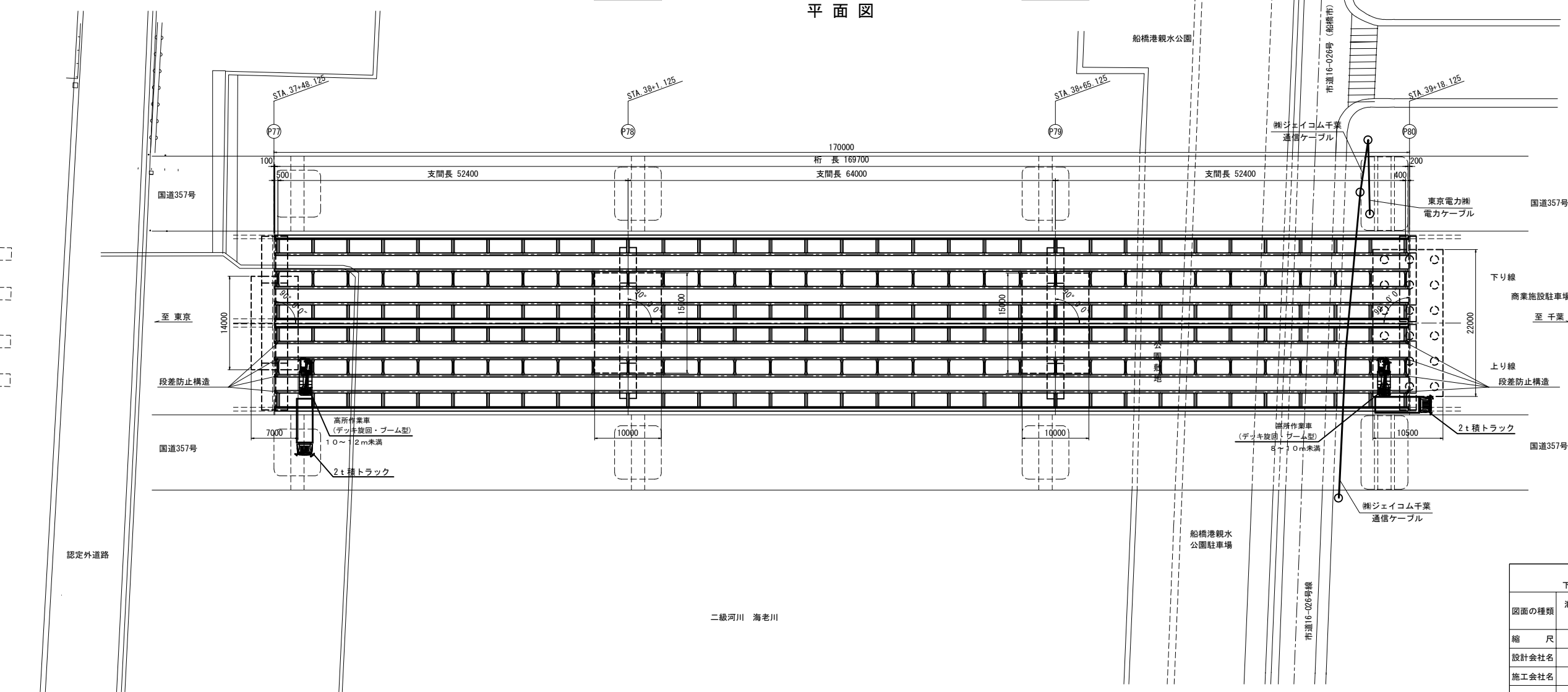
“a” 部詳細図 S=1:200



“b” 部詳細図 S=1:200



平 面 図



東関東自動車道 下小野第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	海老川南橋（上り線）P 7 7 ・ P 8 0 橋脚 施工概要図（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	5 / 5
設計会社名	東日本高速道路株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社		
事務所名	関東支社 千葉管理事務所		